

断捨離～豊かな暮らしをもとめて～

断捨離とは、必要な物だけを持ち、自分にとって本当に大事な物をだけを取りこむことで楽に生きることです。本当に必要な物、大切な物は何か、この点を考えながら暮らしていくと余計な買い物をしなくなり、時間やお金の節約にもなるようです。

私達は、とかく物を捨てることに対して罪悪感がわき、そのせいで物を減らすことにブレーキがかかったりもします。実際に断捨離すると、物からの開放感があり、窮屈な暮らしからも逃れられます。良いことづくめのようにですが、それがなかなか進まないのは物への執着心やあやまって捨てることへの不安からでしょうか？単に先送りしていることもあるかもしれません。

はじめるきっかけとして四季の衣替えシーズンはいかがでしょうか。日本には、四季折々に衣替えをするという習慣があり、その節目は新しいことをするチャンスです。

また最近、新しい言葉で耳にするのがミニマリスト。最小限のもので満足し、幸せに思う暮らしの実現をしている人達が話題になっています。シンプルに生きる。今から、暮らし方をかえてみませんか。



『断捨離のすすめ』

モノを捨てればうまくいく』

川畑 のぶこ/著
やました ひでこ/監修
同文館出版
K597.5 カ



『モノやお金がなくても豊かに暮らせる。もたない贅沢がいちばん』

ヘンリー・D. ソロー/著
増田 沙奈/訳
星野 響/構成
興陽館
2階一般 934.6 ソ



『minimalism 30歳からはじめるミニマル・ライフ』

ジョシュア・フィールズ・ミルバーン/著
ライアン・ニコデマス/著
吉田 俊太郎/訳
フィルムアート社
K159 ミ

ラクタを捨てれば、停滞していたことが回り出し、いいことが起こり出す！ 著者の豊富な経験と実践体験記を通して、モノとの関係を問い直す。

モノを「持たない」を実践し、「ロハス」をはじめに口にしたヘンリー・D. ソロー。ミニマリストがバイブルとして読んで、ソローの「ウォールデン」の言葉を中心に、「ミニマルに生きる効果」を紹介。

最小限しか持たずに、最大限に豊かな暮らしをしよう！「ザ・ミニマリスト」のユニット名で知られる30歳の男性2人組が、より少ない所有物でもっと有意義な生活を送るためのツール「ミニマリズム」について綴る。

新刊ピックアップ

『合格賢脳レシピ 80 受験生をごはんで応援!』

篠原 菊紀/監修
法研
K596 ゴ

脳の機能を高めるごはんから、かぜをひかせないごはん、受験のストレスを癒やしてくれるごはん、栄養たっぷりのおやつまで、“賢脳”を育てるレシピを紹介。



第9回長崎学講座 越中哲也氏講演会

「長崎の絵画～近代絵画の源流を語る～」

今年で9回目となる長崎学講座。11月3日に長崎学の権威として知られている越中哲也氏をお招きして開催しました。

かつて海外に開かれた窓口として栄えた長崎には、他にはないユニークな歴史・文化が存在します。その中でも今回は、近世の長崎で花開き、日本の近代絵画に影響を与えたと言われる「長崎の絵画」について、開港後の長崎の町の成り立ちや歴史的背景をふまえながらお話いただきました。

講座に参加された方は、越中哲也氏の軽快でユーモアあふれる解説を聞きながら、様々な「長崎の絵画」を堪能していただけたのではないのでしょうか。当日は87名もの方にご参加いただき、長崎の歴史への関心の高さが感じられる講演会となりました。



図書館で『和の芸』を楽しむ

～落語と和太鼓のひととき～

2012年に始まった「図書館で『和の芸』を楽しむ」も、5年目を迎えました。毎年、落語や地元長崎で活動されている方々による和楽器の演奏などを楽しむことができ、多くの方にご好評をいただいています。

今年は、桜馬場中学校和太鼓部のみなさんと毎年ご出演いただいている林家きく麿さんをお招きしました。日々腕を磨き、大型クルーズ船の見送りのセレモニーやおくんちなどでも演奏をされている和太鼓部。この日も力強い演奏にひきつけられました。躍動感溢れる和太鼓を体全体で感じた後は、古典落語『初天神』『転宅』、新作落語『歯ンデレラ』で大笑い。

会場では、和太鼓や落語に関する本の展示もおこない、休憩時間に友人や家族と和の芸の話に花を咲かせている様子が見られました。子どもから大人までたくさんの方にお集まりいただき、今年も笑顔でいっぱいの会場となりました。



寄贈紹介

長崎しにせ会文庫

長崎市で創業し 100 年以上の業歴を有する老舗により構成される長崎しにせ会が平成 21 年 3 月、創立 50 周年記念事業の一つとして、長崎の青少年をはじめ、多くの人に幅広く世界に通用する大きな器の人間をめざし、物事の本質を考え抜く人間になっていただきたいという趣旨で、仕事に役立つ歴史・古典など先人の世間知・人間知・人生知を知るための図書 296 冊(150 万円相当)で文庫を創設されました。

その後も毎年寄贈を続けられ、今年は 27 冊(5 万円相当)の図書を寄贈していただきました。これまでに寄贈していただいた図書は 529 冊になります。



富永児童文庫

故富永和徳様が青少年健全育成活動の一環として、読書を通して豊かで明るい人づくり社会づくりに貢献したいという趣旨で、昭和 56 年に 3,484 冊(300 万円相当)の図書で文庫を創設され、その後、平成 24 年度までの 32 年間にわたり毎年寄贈を続けられました。

平成 25 年度からはご息子の富永和照様がそのご遺志を引き継がれ、今年度も 69 冊(10 万円相当)の図書をご寄贈いただきました。これまでにいただいた図書は 7,233 冊になります。



ブック・リレー

「子どもへのまなざし」

「みかた」と聞いて、頭に浮かぶ文字は何ですか？見方？味方？

『こどものみかた春夏秋冬』は、柴田愛子氏が長年保育者としてみつめてきた子どもの姿を綴ったエッセイ集です。語られるエピソードは何気ない日常で、どうということはないものに思えるかもしれませんが、見方を変えるとその一つ一つはかけがえのない子どもそのものに満ちていて、子ども自身の育つ力、柔軟さ、ありのままを引き受け合い認め合う共生力には感嘆します。存在そのものをきちんとみつめて、子どもの味方になって、子どもの人生を応援する。この本には、そんな大人になりたいものだと思わせる力があるように感じます。

子どもをみつめるまなざしは同じようでも、社会や大人達へより厳しい提言をする方もいます。『勉強しなければだじょうぶ』というちょっと驚くようなタイトルの著者は今年 71 歳を迎えた絵本作家・五味太郎。インタビュー形式のこの本は、なにも学びを否定しているわけではなく、五味さんなりの勉強と学習の違いをまっすぐ、濁りなく、ぶつけてきます。それぞれの子どもの見方にふれてみませんか。

(司書 黒岩 綾香)



『こどものみかた春夏秋冬』

柴田 愛子/著
福音館書店
2階一般 376.1シ



『勉強しなければだじょうぶ』

五味 太郎/著
内海 陽子/聞き手
集文社
2階一般 370.4ゴ



今月のイベント・展示

イベント

1日	木	あかちゃんおはなし会
3日	土	大学生による大学生のためのデータベース講習会 ～悔いのない就職活動のために～
4日	日	大きい子向けおはなし会
8日	木	小さい子向けおはなし会
10日	土	図書館でがんを学ぼう！話そう！
16日	金	定期上映会「クリスマス・イン・コネチカット」(夜)
18日	日	大きい子向けおはなし会
21日	水	定期上映会「クリスマス・イン・コネチカット」(昼)
22日	木	小さい子向けおはなし会
25日	日	定期上映会「パパは雪だるま」(昼)
年末年始の休館 2016年12月29日(木)～2017年1月4日(水)		
年始は、1月5日(木)より開館		

※イベントの詳細は、館内のポスター・ちらし、またはホームページで確認できます。

展示

1階展示

1階特集	くる年2017 新年を迎える
1階ミニ	時代小説を読む
児童特集	ふゆのおはなし
児童ミニ	らいねんは なにどし？
YA特集	歴史をふりかえる
YA投稿	2016年の大成功 大失敗
イベント関連展示	長崎歴史文化観光検定関連展示『長崎検定に挑む！』

2階展示

2階特集	ゆく年2016
長崎県美術館連動展示	特別展「古代ギリシャー時空を超えた旅ー」(～12/11) デンマーク・デザイン(12/23～)

年末年始のお知らせ

12月29日(木)～1月4日(水)は年末年始の休館期間となります。これに伴い、12月15日(木)～12月28日(水)に貸出される資料の貸出期間を3週間に変更します。

休館中の返却は、返却ポストをご利用ください。ただし、CD・DVD・紙芝居は壊れやすいので返却ポストには入れず、開館時に返却カウンターへお返しください。

公民館、ふれあいセンター等図書室の休館日は、直接各館にお尋ねください。